

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立西和佐小学校
校長氏名	岡本 博
作成日	

1 教育目標

強いからだと明るい心を持つ子どもの育成

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	(1) 授業参観や啓発活動を通して保護者や地域の方々に子育てや教育に対する意識を高める。 (2) 教職員の資質向上や意識改革を図るとともに、その取り組みを広く伝える。 (3) 子どもの様子を積極的発信して保護者や地域の方々に知らせる。	(1) 人権・同和教育を推進するとともに、人権意識の高揚に努める。 (2) 学校や家庭での読書活動を推進し、ゆたかな心の醸成につなげる。 (3) 地域や関係団体、育友会と連携しながら、豊かな体験活動を推進するとともに道徳教育を充実させる。 (4) 教職員と子ども、子どもどうし、教職員と保護者のよりよい関係を通して、お互いの信頼関係を築く。	(1) 基礎学力の向上を図る。 (2) コミュニケーション能力の向上と活用を通して生き生きと主体的に取り組む子どもを育成する。 (3) キャリア教育の整備を図る。 (4) 教員の指導力等の向上を図り、子どもの学力を伸ばす。そのために外部から指導や助言を求める。

取組の状況【D】	◆学校通信「西和佐っ子だより」、学年だより、学級通信等や授業参観や教育講演会等を通して子どもの活動状況を広く伝え、保護者の教育に対する意識を高めることを図った。 ◆学校開放月間等を活用し、教育関係者の学校訪問を促し、その取り組みを保護者や地域の方々に広く伝えた。	◆各学級で道徳教育を通して豊かな人間性を育て、人権・同和教育を推進することによって人権意識の高揚に努めた。 ◆朝読書や「うちどく」などを通しての読書活動を実施した。 ◆「にしわさ活動」では縦割りでさまざまな活動を行っている。	◆「西和佐っ子タイム」や基礎の時間を活用して、読み・書き・計算の基礎学力の定着を図った。 ◆放課後の補足的な学習の時間の設定により児童の学力補充に努めた。 ◆市の客員指導主事等外部の指導者に助言を求める機会を増やし、教員の指導力向上につなげた。 ◆自主学習ノートに取り組んだ。
取組の成果と課題【G】	○保護者アンケートでは「教育目標を具体的にわかりやすく伝えている」が67%、「子どもの活動の様子をわかりやすく伝えている」が79%、「家庭、地域は小学校に対し、それぞれの役割を果たし、連携・協力している」が81%である。 ○校内美化作業や花いっぱい運動等で地域のたくさんのの方々に学校に来ていただき、子どもたちの環境づくりに力を貸していただいている。その成果の表れとして、「第35回県小学校人権の花運動」の写真コンテストで、優秀賞に輝いた。	○児童アンケートでは「わたしは学校がたのしい」について、95%(1年～2年)、96%(3年～6年)であり、「わたしは友達と仲良くしている」については95%(1年～2年)、97%(3年～6年)となっている。 ○保護者アンケートでは「小学校は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」については78%となっている。 ○全国学力学習状況調査の児童質問紙調査からも児童は、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」については、90.2%と全国平均より9.0ポイント高い。 ○以上の結果から児童は落ち着いた学校生活を過ごせていることが伺われるが、今後も学校全体として人権・同和教育や道徳教育の充実を図っていきたい。	○児童アンケートでは「せんせいはわかりやすくべんきょうをおしえてくれる」が90%(1年～2年)、92%(3年～6年)であり、「毎日の勉強がわかる」が81%(1年～2年)、87%(3年～6年)である。 ○保護者アンケートでは「子どもは学習内容がわかり基礎的な学力が身につけている」が84%であるが、「自分で計画を立てて勉強や宿題をしている」が49%、「家で学校の授業の予習をしている」37%となっている。 ○全国学力学習状況調査の各教科の平均正答率は次のとおりである。国語Aは79(75)、国語Bは56(58)、算数Aは83(79)、算数Bは45(46)(かっこ内は全国平均)であった。
次年度に向けての改善方法【A】	◎保護者アンケートにもあるように、「教育目標」や「子どもの活動の様子」などについてはわかりやすく伝えていくよう工夫などしていきたい。 ◎次年度も本年度と同様、地域との連携の中でたくさんの保護者や地域の方々に来校していただける学校にしたい。	◎道徳教育を通して、豊かな人間性を育て、人権・同和教育を推進していく活動や読書貯金などの表彰や朝の読書活動や「うちどく」など家庭での読書活動、さらに「にしわさ活動」の縦割り活動も今後も大切にしていきたい。	◎児童、保護者のアンケートの結果、概ね基礎学力の定着はついていっているように考えられるが、家庭学習の時間が少ないという結果が出ており、このことについて学校と家庭が連携して取り組んでいきたい。 ◎本年度の全国学力学習状況調査については、国語A、算数Aともに、全国平均を4ポイント上回っているが、国語Bは2ポイント、算数Bは1ポイント下回っている。 ◎評価できる場所はその取り組みを継続し、課題のあるところについては、全職員で共通理解し、次年度に活かしたいと考える。

3 その他の課題

・学校施設の老朽化が課題であり、改修が必要な箇所については、市当局へ要望していきたい。